



TaKaRa

株主のみなさまへ

第101期中間報告書

2011年4月1日～2011年9月30日

社長メッセージ

特集：TaKaRaグループの基盤事業の展開

トピックス

セグメント別概況

連結業績のご報告

株主のみなさまからのよくあるご質問

会社情報

社長メッセージ

新しい10年間に向けて

TaKaRaグループは、今後10年間に見込まれる国内外の環境変化を見据えた長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」を策定し、2011年4月より新たなスタートを切りました。

これまでも、長期経営構想と、その実行計画である中期経営計画に基づく事業展開で、今日のTaKaRaグループを特徴づける、酒類・調味料事業という安定収益基盤と、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長事業を併せ持つ、独自性の高い事業ポートフォリオを築き上げてきました。明確な長期戦略に基づく事業展開は、当社グループの基本方針です。

今後は、国内外において現在の事業ポートフォリオをさらに強化していくことで、より一層、環境変化に強いバランスのとれた事業構造の確立を目指していきます。

長期経営ビジョンの実現に向けた第1ステップ

長期経営ビジョンでは、国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立することを経営目標に掲げています。この目標の実現に向け

た第1ステップとして策定した「TaKaRaグループ中期経営計画2013」では、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大することを目指しています。定量目標としては、連結売上高2,000億円以上、連結営業利益100億円以上、海外売上高比率10%以上を目指します。

当第2四半期連結累計期間の業績について

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、宝酒造グループにおいて、ソフトアルコール飲料が大幅な増収となり、海外酒類事業、日本食材卸事業も順調に事業拡大が進んでいることなど、また、タカラバイオグループにおいて、遺伝子工学研究事業における主力の研究用試薬が増収となり、遺伝子医療事業も好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期比で増収となりました。利益面では、営業利益、経常利益ともに増益となりましたが、東日本大震災により被災した製品の廃棄・評価損などで「災害による損失」を計上したほか、投資有価証券評価損を計上したことなどにより、四半期純利益は前年同期比で減益となりました。

(業績についての詳細は5～8ページをご覧ください。)

企業価値向上に向けて

当社は持株会社として、グループ経営基盤の強化、風土・人材の育成、社会・環境行動の推進などを通じて、事業方針に沿ったグループ経営を実践し、TaKaRaグループの企業価値向上のため邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましても、なにとぞ倍旧のご支援、ご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

2011年12月

代表取締役社長

大宮久



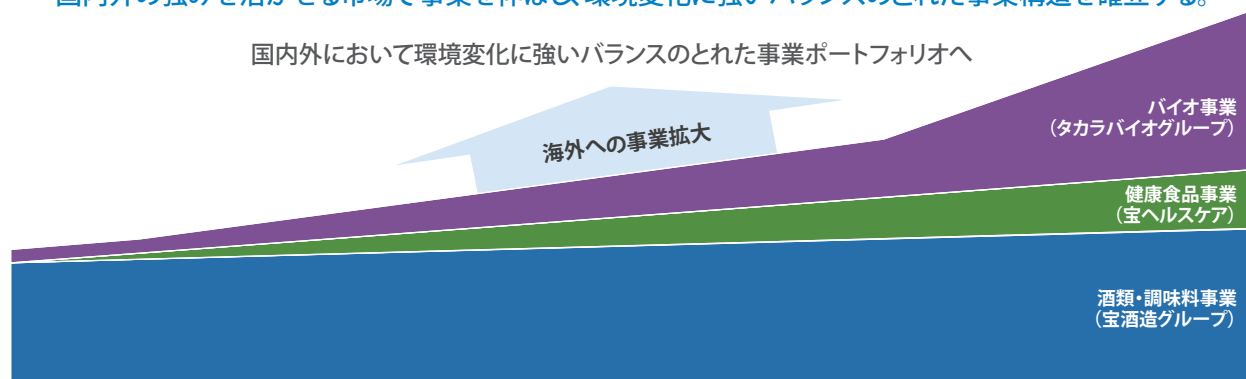
企業理念

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します。

長期経営ビジョン TaKaRaグループ・ビジョン2020

国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する。

国内外において環境変化に強いバランスのとれた事業ポートフォリオへ



TaKaRaグループ中期経営計画2013 (2011年4月～2014年3月)

基本方針

「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する。

定量目標

2014年3月期 TaKaRaグループ 連結売上高2,000億円以上、連結営業利益100億円以上、海外売上高比率10%以上、成長事業+育成事業売上高比率25%以上

基盤事業

国内酒類事業

中核事業として収益力の強化に取り組み、グループの成長を支える。

成長事業

海外酒類事業、日本食材卸事業
調味料・酒精事業
遺伝子工学研究事業

成長が見込まれる市場で、積極的に事業拡大を図り、グループ全体の成長を牽引する。

育成事業

健康食品事業
遺伝子医療事業

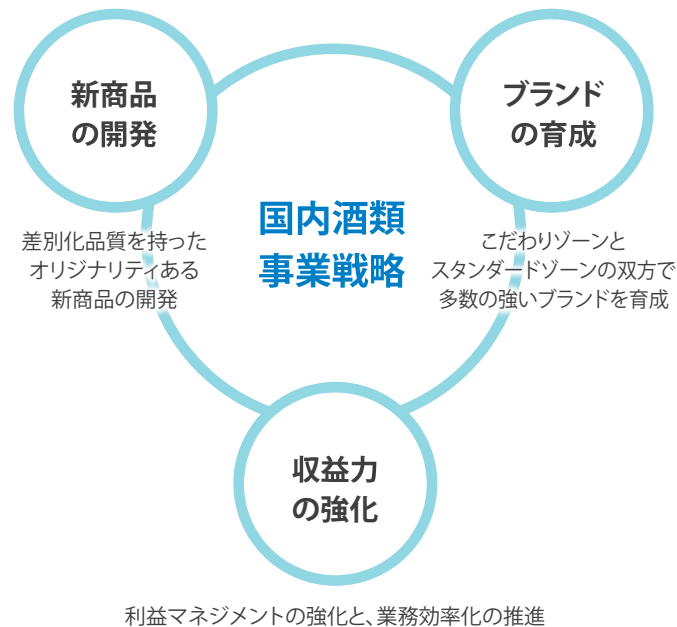
成長が見込まれる市場で、次期の成長事業化を目指し、事業基盤の確立に取り組む。

TaKaRaグループの基盤事業の展開

中期経営計画2013で基盤事業に位置付ける『国内酒類事業の戦略』についてご紹介します。

「基盤事業」に位置付ける国内酒類事業では、引き続き全量芋焼酎「一刻者」、本格麦焼酎「知心剣」、松竹梅「白壁蔵」ブランドに代表されるこだわりゾーンと、甲類焼酎・極上<宝焼酎>、本格焼酎「黒よかいち」、焼酎ハイボール、松竹梅「豪快」などのスタンダードゾーンの双方において、多数の強いブランドを育成していきます。

さらに今後は、差別化品質を持ったオリジナリティある新商品についても開発スピードを上げ、売上の拡大と新たな需要層の獲得を目指します。同時に、利益マネジメントの強化と業務の効率化を推進することで、安定的なキャッシュ・フローを生み出すグループの中核事業として、グループ全体の成長を支えていきます。



こだわりゾーンブランド



「知心剣」広告キャラクター：吹石一恵さん

スタンダードゾーンブランド



トピックス

■ 宝酒造グループ

新感覚のスパークリング清酒 松竹梅白壁蔵「霽」新発売

新感覚の
スパークリング
清酒

米と米麴から生まれたほどよい酸味とほんのり甘い味わいの、爽やかな泡が心地よい、アルコール分5度の飲みやすい発泡性清酒です。泡が立ちのぼる様子をイメージした、スタイリッシュなデザインは、プチギフトにもぴったりです。



■ 宝酒造グループ

松竹梅「天」900ml エコパウチ新発売

環境にやさしい
新容器入り清酒

宝酒造と大日本印刷株式会社が共同で開発したオリジナルのパウチパックを使用した清酒で、同容量の紙パック商品と比較して当社比約50%のごみ減量化を実現した環境にやさしい商品です。使用後は本体、キャップともにプラスチックごみとして一緒に捨てることができます。



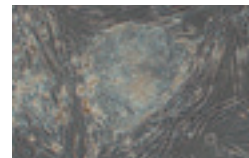
■ タカラバイオグループ

臨床試験での使用を目指したiPS細胞作製用プラスミドベクターの製造供給

タカラバイオと京都大学iPS細胞研究所とは、臨床試験における使用を目指したiPS細胞作製用プラスミド^{※1}ベクター^{※2}の製造供給に関する契約を2011年7月29日付で締結しました。

両者は、2011年3月1日より、臨床試験での使用を目指し、iPS細胞を作製するためのプラスミドベクターの品質などに関して共同研究を実施しています。タカラバイオは、保有するベクター製造技術、ノウハウや経験を活用し、同研究所が開発したプラスミドベクターを製造するための品質・規格値などを検証してきました。

引き続き共同研究を進め、医薬品医療機器総合機構と品質に関する相談を経て、2011年度中に臨床試験用のiPS細胞作製用プラスミドベクターの製造をタカラバイオが有償で実施します。同研究所では、再生医療への応用に向けて、当該プラスミドベクターを用いて品質の保証されたiPS細胞を作製する計画です。



iPS細胞

※1 プラスミド：染色体DNA以外の細胞質DNAの名称。環状の二本鎖構造をとるDNAで、細胞内で核以外の細胞質中に存在し、染色体とは独立して自律的に増殖し、親から子へ伝えられる。

※2 ベクター：目的遺伝子をバクテリアや細胞に導入するための分子。

セグメント別概況

宝ホールディングス

宝酒造グループ
酒類・調味料事業

タカラバイオグループ
バイオ事業

宝ヘルスケア
健康食品事業

その他
子会社

■ 宝酒造グループ

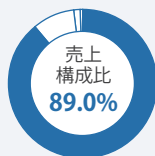
(百万円)

	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)	前年同期比(%)
売上高	80,754	84,996	105.3%
営業利益	2,784	2,569	92.3%

業績概況

「焼酎ハイボール」が引き続き好調に推移するとともに、2011年3月にリニューアルした「直搾り」などのソフトアルコール飲料が大幅な増収となりました。また、松竹梅白壁蔵「霽」を新発売した清酒や、料理清酒、ウイスキー、原料用アルコール等もそれぞれ好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期比105.3%の84,996百万円となりました。

利益面では、原材料価格の高騰により原価率が上昇しましたが、売上の増加にともない売上総利益は増加しました。一方、販売費及び一般管理費が、ブランド強化策として戦略的な広告宣伝費を投下したことなどにより増加した結果、営業利益は前年同期比92.3%の2,569百万円となりました。



カテゴリー別 売上構成比

焼酎
43.2%



清酒
8.7%



ソフトアルコール
飲料
17.9%



調味料
12.2%



※その他18.0%

■ タカラバイオグループ

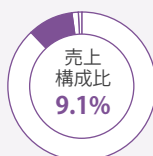
(百万円)

	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)	前年同期比(%)
売上高	8,443	8,642	102.4%
営業利益	194	394	202.7%

業績概況

遺伝子工学研究事業では、研究用試薬が増収となり、質量分析装置などの理化学機器も好調に推移しました。遺伝子医療事業では、がん免疫細胞療法を実施する医療機関への技術支援サービスが増収となりました。また、医食品バイオ事業では、健康食品は増収となりましたが、キノコ関連製品が減収となりました。その結果、売上高は前年同期比102.4%の8,642百万円となりました。

利益面では、原価率の低下により売上総利益は増加し



カテゴリー別売上構成比

遺伝子工学
研究事業
83.4%

遺伝子
医療事業
4.6%

医食品
バイオ事業
12.0%



ました。また、運送費や研究開発費の増加により販売費及び一般管理費が増加しましたが、営業利益は前年同期比202.7%の394百万円となりました。

■ 宝ヘルスケア

(百万円)

	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)	前年同期比(%)
売上高	1,516	1,326	87.5%
営業利益	△115	△86	—

業績概況

健康食品の主力であるフコイダン関連製品の売上が増加しましたが、その他の飲料の売上が減少したため、売上高は前



年同期比87.5%の1,326百万円となりました。

利益面では、利益率の高いフコイダン関連製品の増加により原価率が低下しましたが、売上高減少の影響により、売上総利益は減少しました。一方、営業損失は前年同期より29百万円減少の86百万円と損益は改善しました。



連結業績のご報告

連結貸借対照表(要約)

(百万円)

① 総資産

総資産は、前期末比3,495百万円減少の188,953百万円となりました。流動資産は、配当や納税による現金及び預金の減少、受取手形及び売掛金の増加、余資の運用としての有価証券の増加などにより、前期末比1,927百万円の減少となりました。固定資産は、上場株式の時価下落による投資有価証券の減少などにより前期末比1,567百万円の減少となりました。

① 負債

負債は、未払法人税等や繰延税金負債の減少などにより、前期末比2,402百万円減少の83,151百万円となりました。また、1年内に償還予定の社債5,000百万円を固定負債から流動負債へ振り替えました。

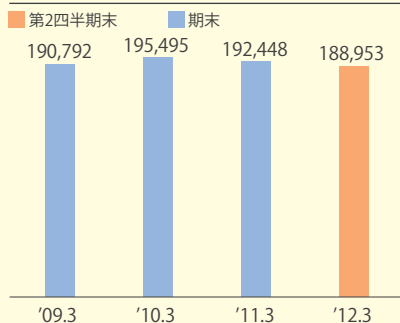
① 純資産

純資産は、配当支払1,767百万円などにより、利益剰余金が807百万円減少したほか、その他有価証券評価差額金の減少898百万円などにより、前期末比1,093百万円減少の105,801百万円となりました。

	2011年3月期末	2012年3月期第2四半期末
資産の部		
流動資産	119,707	117,779
固定資産	72,741	71,173
有形固定資産	41,645	42,048
無形固定資産	6,028	5,930
投資その他の資産	25,067	23,194
資産合計	192,448	188,953
負債の部		
流動負債	41,453	44,702
固定負債	44,100	38,449
負債合計	85,553	83,151
純資産の部		
株主資本	96,356	95,542
その他の包括利益累計額	△2,048	△2,560
少数株主持分	12,587	12,819
純資産合計	106,895	105,801
負債純資産合計	192,448	188,953

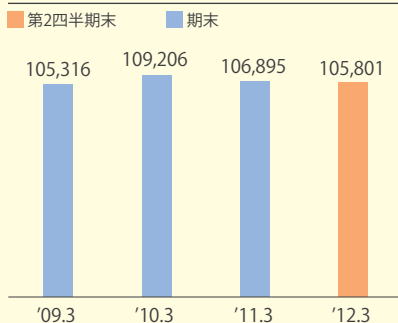
総資産

(百万円)



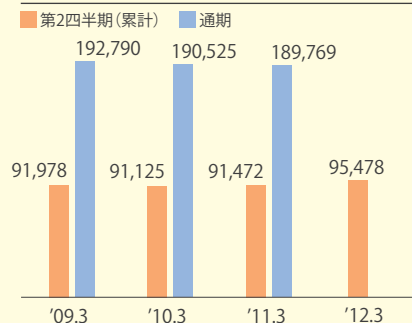
純資産

(百万円)



売上高

(百万円)



連結損益計算書(要約)

(百万円)

	2011年3月期第2四半期(累計)	2012年3月期第2四半期(累計)
売上高	91,472	95,478
売上原価	56,068	58,583
売上総利益	35,404	36,895
販売費及び一般管理費	32,155	33,569
営業利益	3,248	3,326
経常利益	3,234	3,451
税金等調整前四半期純利益	3,042	2,271
四半期純利益	1,378	959

① 売上高

宝酒造グループにおける、ソフトアルコール飲料の大幅な増収や、海外酒類事業、日本食材卸事業の順調な進展など、また、タカラバイオグループにおける、遺伝子工学研究事業の主力である研究用試薬の増収、遺伝子医療事業の好調な推移などにより、売上高は前年同期比104.4%の95,478百万円となりました。

④ 四半期純利益

営業利益、経常利益はともに増益となりましたが、特別損失として、東日本大震災で被災した製品の廃棄・評価損などで「災害による損失」805百万円、株価下落の影響で投資有価証券評価損357百万円を計上したことなどにより、四半期純利益は前年同期比69.6%の959百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(百万円)

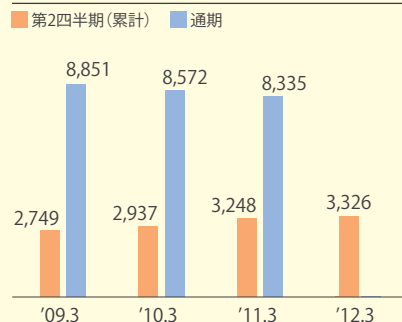
	2011年3月期第2四半期(累計)	2012年3月期第2四半期(累計)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,372	804
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,662	△4,496
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,953	△2,022
現金及び現金同等物に係る換算差額	△121	10
現金及び現金同等物の増減額	△2,457	△5,703
現金及び現金同等物の期首残高	33,624	28,384
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,166	22,680

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益2,271百万円、減価償却費2,150百万円、売上債権の増加1,864百万円、法人税等の支払額1,343百万円などにより、前年同期比1,567百万円減少し804百万円の収入となりました。

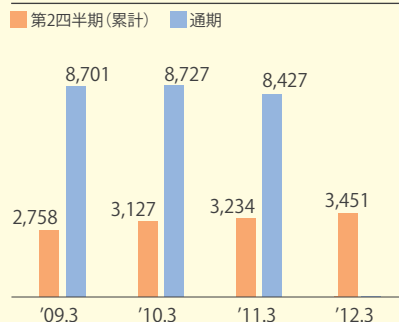
営業利益

(百万円)



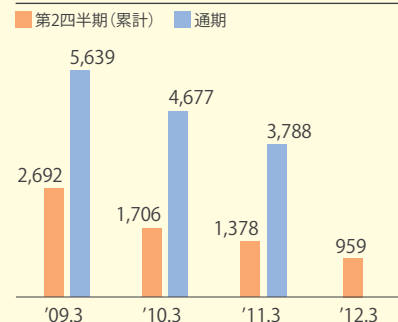
経常利益

(百万円)



純利益

(百万円)



株主のみなさまからのよくあるご質問

株主のみなさまに、TaKaRaグループについてよりご理解いただくために、みなさまからお寄せいただく「よくあるご質問」にお答えします。

TaKaRaグループでは、タイムリーな情報発信とTaKaRaグループへの理解を深めていただくためにウェブサイトを活用しており、ホームページでさまざまな情報をご覧いただけます。ぜひご覧ください。

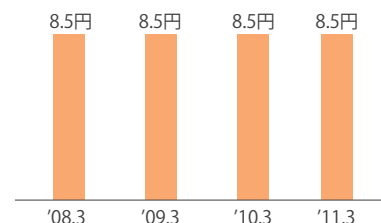
<http://www.takara.co.jp>



Q 株主還元方針について教えてください。

A 株主還元策につきましては、引き続き、安定的な配当の継続を基本としつつ業績連動の要素も加味した配当と、資本効率の向上に資する自己株式の取得とを併せて実施します。2012年3月期の配当は、業績見通しを前提に、引き続き1株当たり8円50銭を予定していますが、併せて自己株式の取得を通じて、積極的な株主還元に努めてまいります。

配当金(1株当たり)



Q 配当金領収証に記載の払渡し期間中にゆうちょ銀行などで配当金を受け取らなかったのですが、受取方法を教えてください。

A 配当金領収証に記載されている払渡し期間が経過した配当金につきましては、当社の株主名簿管理人であるみずほ信託銀行よりお支払いします。配当金領収証の裏面に送金方法を指定していただき、表面にご押印の上、本報告書巻末「株主メモ」の株式に関するお問合せ先に記載のみずほ信託銀行 証券代行部あてにお送りください。また、みずほ信託銀行(トラストラウンジを除く)、みずほ銀行、みずほインベスターズ証券の各本支店でもお受付しています。なお、当社定款の規定により、支払開始日から満3年を経過してもお受取りにならないときは、お支払いできなくなりますのでご注意ください。

社会貢献への取り組み

東日本大震災での支援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被害を受けられましたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。宝酒造では、工場間での焼酎の転送などに使用している10kℓ大型タンクローリー車2台と運転手、オペレーターを被災地に派遣し、宮城県仙台市と気仙沼市にて給水活動を支援しました。

このほか、TaKaRaグループとして義援金3,000万円、TaKaRaグループ各社社員およびOBからの義援金254万円を日本赤十字社に寄付しました。



仙台市での給水活動

会社情報 (2011年9月30日現在)

会社概要

商号	宝ホールディングス株式会社 (英文表記: TAKARA HOLDINGS INC.)
本店所在地	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地 TEL 075-241-5112
設立	1925年(大正14年)9月6日
資本金	132億2,621万5,144円
代表者	代表取締役社長 大宮 久
従業員数	16名(グループ連結:3,384名)
連結対象会社	37社

役員

代表取締役会長	後藤 功
代表取締役社長	大宮 久
代表取締役副社長	大宮 正
代表取締役副社長	柿本 敏男
取締役	矢野 雅晴
取締役	松崎 修一郎
取締役	岡根 孝男
取締役	中尾 大輔
取締役	仲尾 功一
取締役(社外取締役)	植田 武彦
常勤監査役	釜田 富雄
常勤監査役(社外監査役)	半田 邦博
監査役	友村 秀夫
監査役(社外監査役)	香川 孝三
監査役(社外監査役)	北井 久美子

株式の状況

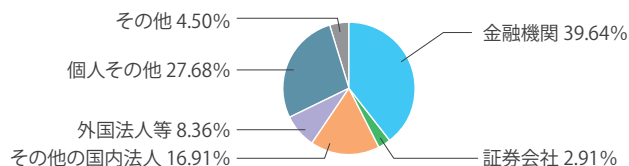
発行可能株式総数	870,000,000株
発行済株式総数	217,699,743株
株主数	29,971名

大株主(上位10名)

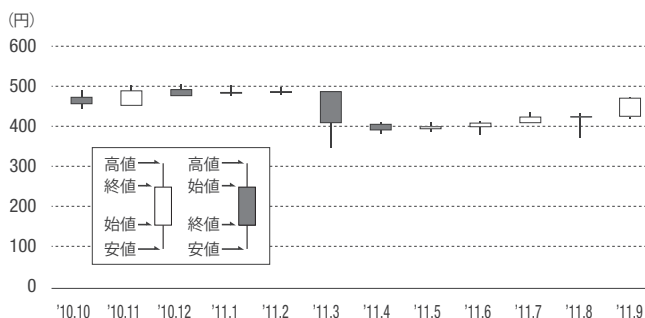
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	11,271	5.42
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	11,198	5.39
株式会社みずほコーポレート銀行	9,738	4.68
農林中央金庫	9,500	4.57
明治安田生命保険相互会社	5,370	2.58
株式会社京都銀行	5,000	2.40
国分株式会社	3,489	1.68
日本アルコール販売株式会社	3,000	1.44
宝グループ社員持株会	2,947	1.42
住友信託銀行株式会社	2,753	1.32

- (注) 1. 持株数の千株未満は切り捨てております。
 2. 当社は自己株式を9,791千株保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。
 また、大株主の持株比率は自己株式を除外して計算しております。
 3. 住友信託銀行株式会社への持株数には、信託業務に係る株式数は含んでおりません。

所有者別株式分布状況



株価の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	■定時株主総会(議決権行使)、期末配当 毎年3月31日 ■その他必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
単元株式数	1,000株
上場取引所	東証1部、大証1部
証券コード	2531
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 ホームページアドレス http://www.takara.co.jp ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、京都新聞および日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
株式に関するお問合せ先	以下の表をご覧ください。

主なお手続き、ご照会内容	お問合せ先
住所・氏名等のご変更 口座の残高照会 配当金の受取方法の指定	口座を開設されている証券会社等 ※なお、特別口座に記録されている株式については、下記のみずほ信託銀行証券代行部までお問合せください。
払渡し期間経過後の配当金に関するご照会 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 特別口座から一般口座への株式の振替手続 その他株式事務に関する一般的なお問合せ	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話番号(フリーダイヤル) 0120-288-324(土日・祝日を除く平日9時~17時)

■特別口座で株式を保有されている方へ

特別口座に記録されている株式は、株式市場での売買はできません。株式市場における株式売買のためには、証券会社にお取引口座を開設し、みずほ信託銀行の特別口座からの株式の振替手続が必要となります。

■単元未満株式を保有されている方へ

単元未満株式(1,000株未満株式)をお持ちの場合、会社に対して、次の請求を行うことができます。

- 1) 単元未満株式の買取りを請求する(買取請求)
- 2) 単元株式(1,000株)にするため、不足する株数の株式の売渡しを請求する(買増請求)

【お問合せ先】 証券会社の口座で管理されている単元未満株式 → 口座を開設されている証券会社
特別口座で管理されている単元未満株式 → みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

宝ホールディングスをはじめとするTaKaRaグループの企業情報、商品情報、
社会貢献活動など詳細な情報はホームページをご覧ください。

<http://www.takara.co.jp>



この印刷物は環境に考慮し、植物油インキ・水なしオフセット印刷で制作しています。
この用紙費用の一部は日本赤十字社に寄付しています。